

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のI F記載要領（1998年9月）に準拠して作成

漢方製剤

NC15

おうれんげどくとう  
コタロー黄連解毒湯  
エキスカプセル

剤形	硬カプセル剤
規格・含量	本剤6カプセル中に日局黄連解毒湯エキス1,800mgを含有
一般名(処方名)	和名：黄連解毒湯 洋名：Orengedokuto
製造・輸入承認年月日 薬価基準収載 ・発売年月日	製造承認年月日：1986年8月28日 薬価基準収載年月日：1986年10月30日 発売年月日：1986年10月30日
開発・製造・輸入・ 発売・提携・販売 会社名	製造販売元：小太郎漢方製薬株式会社
医薬情報担当者の 連絡先・ 電話番号・FAX番号	

本I Fは2018年2月改訂の添付文書の記載に基づき作成した。

## I F利用の手引きの概要 - 日本病院薬剤師会-

### 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者（以下、MRと略す）等にインタビューし、当該医薬品の評価を行うのに必要な医薬品情報源として使われていたインタビューフォームを、昭和 63 年日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I Fと略す）として位置付けを明確化し、その記載様式を策定した。そして、平成 10 年日病薬学術第 3 小委員会によって新たな位置付けと I F 記載要領が策定された。

### 2. I Fとは

I Fは「医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書として、日本病院薬剤師会が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

しかし、薬事法の規制や製薬企業の機密等に関わる情報、製薬企業の製剤意図に反した情報及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は I F の記載事項とはならない。

### 3. I Fの様式・作成・発行

規格はA 4判、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体で記載し、印刷は一色刷りとする。表紙の記載項目は統一し、原則として製剤の投与経路別ごとに作成する。I Fは日病薬が策定した「I F記載要領」に従って記載するが、本I F記載要領は、平成 11 年1月以降に承認された新医薬品から適用となり、既発売品については「I F記載要領」による作成・提供が強制されるものではない。また、再審査及び再評価（臨床試験実施による）がなされた時点ならびに適応症の拡大等がなされ、記載内容が大きく異なる場合にはI Fが改訂・発行される。

### 4. I Fの利用にあたって

I F策定の原点を踏まえ、MRへのインタビュー、自己調査のデータを加えてI Fの内容を充実させ、I Fの利用性を高めておく必要がある。

MR等へのインタビューで調査・補足する項目として、開発の経緯、製剤的特徴、薬理作用、臨床成績、非臨床試験等の項目が挙げられる。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、当該医薬品の製薬企業の協力のもと、医療用医薬品添付文書、お知らせ文書、緊急安全性情報、Drug Safety Update（医薬品安全対策情報）等により、薬剤師等自らが加筆・整備する。そのための参考として、表紙下段にI F作成の基となった添付文書の作成又は改訂年月を記載している。なお、適正使用や安全確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等には承認外の用法・用量、効能・効果が記載されている場合があり、その取扱いには慎重を要する。

# 目 次

I. 概要に関する項目	1
II. 名称に関する項目	2
III. 有効成分に関する項目	3
IV. 製剤に関する項目	5
V. 治療に関する項目	9
VI. 薬効薬理に関する項目	11
VII. 薬物動態に関する項目	12
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	14
IX. 非臨床試験に関する項目	17
X. 取扱い上の注意等に関する項目	18
XI. 文献	20
XII. 参考資料	21
XIII. 備考	22

# I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯	<p>黄連解毒湯は「外台秘要方」に煎薬としての処方が記載されており、その後多くの成書に記載されている。近年になって、煎薬の不便さや、服薬時の不快な味やにおいを解消するため、エキス製剤化がなされてきた。本剤は、原薬（水製乾燥エキス）が特有の苦味・においを有するので、コンプライアンス、取扱いやすさを考え、「カプセル剤」とした。</p>
2. 製品の特徴および有用性	<p>1) 本剤の効能・効果は、 「比較的体力があり、のぼせがみで顔色赤く、いらいらする傾向のある次の諸症： 鼻出血、高血圧、不眠症、ノイローゼ、胃炎、二日酔、血の道症、めまい、動悸、湿疹・皮膚炎、皮膚瘙癢症」 である。</p> <p>2) カプセル剤である。</p>

## Ⅱ. 名称に関する項目

<p>1. 販売名 (1) 和名  (2) 洋名  (3) 名称の由来</p>	<p>コタロー黄連解毒湯エキスカプセル  なし。  原典記載の名称である。</p>
<p>2. 一般名 (1) 和名(命名法)  (2) 洋名(命名法)</p>	<p>黄連解毒湯  Orengedokuto</p>
<p>3. 構造式または示性式</p>	<p>該当しない。 [参考] 本剤の有効成分は特定できないが、配合生薬のオウレン・オウバク由来のベルベリン、オウゴン由来のバイカリン、サンシシ由来のゲニポシド等が含有されている。</p>
<p>4. 分子式および分子量</p>	<p>該当しない。 [参考] 上記の本剤の含有成分の分子式および分子量 ベルベリン (C<sub>20</sub>H<sub>18</sub>NO<sub>4</sub> : 336.37) バイカリン (C<sub>21</sub>H<sub>18</sub>O<sub>11</sub> : 446.37) ゲニポシド (C<sub>17</sub>H<sub>24</sub>O<sub>10</sub> : 388.37)</p>
<p>5. 化学名(命名法)</p>	<p>該当しない。</p>
<p>6. 慣用名、別名、略号、記号番号</p>	<p>記号番号 : NC15</p>
<p>7. CAS登録番号</p>	<p>該当しない。</p>




### Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 有効成分の規制区分	該当しない。
2. 物理化学的性質 (1) 外観・性状	黄褐色～濃黄褐色の粉末で、特異なおいがあり、味は苦い。
(2) 溶解性	原薬（水製乾燥エキス）2.0 g は室温で 100 mL の水に混濁する。
(3) 吸湿性	吸湿性がある。
(4) 融点（分解点）、 沸点、凝固点	特定できない。
(5) 酸塩基解離定数	特定できない。
(6) 分配係数	特定できない。
(7) その他の主な示性値	原薬（水製乾燥エキス）の水溶液（2 g →100 mL）の pH は約 5.0 である。
3. 有効成分の各種条件下における安定性	原薬（水製乾燥エキス）は室温に保存した場合、吸湿により外観の変化は認められるが、成分含量には変化がなかった。
4. 有効成分の確認試験法	<p>原薬（水製乾燥エキス）中の配合生薬の確認試験法</p> <p>1) オウレン・オウバク ：薄層クロマトグラフィー法による確認</p> <p>2) オウゴン：薄層クロマトグラフィー法による確認</p> <p>3) サンシシ：薄層クロマトグラフィー法による確認</p>

## 5. 有効成分の定量法

- ① 原薬（水製乾燥エキス）中に含まれるオウレン・オウバク由来のベルベリンを高速液体クロマトグラフィー法により定量する。
- ② 原薬（水製乾燥エキス）中に含まれるオウゴン由来のバイカリンを高速液体クロマトグラフィー法により定量する。
- ③ メタノールエキス含量  
原薬（水製乾燥エキス）中に含まれるメタノール可溶成分の含有量を、日本薬局方の一般試験法の「生薬試験法・エキス含量(1) 希エタノールエキス定量法」の方法に準じて定量する。
- ④ 70%エタノールエキス含量  
原薬（水製乾燥エキス）中に含まれる70%エタノール可溶成分の含有量を、日本薬局方の一般試験法の「生薬試験法・エキス含量(1) 希エタノールエキス定量法」の方法により定量する。

## IV. 製剤に関する項目

<p>1. 剤 形</p> <p>(1) 剤形の区別および性状</p> <p>(2) 製剤の物性</p> <p>(3) 識別コード</p> <p>(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨および安定なpH域等</p> <p>(5) 酸価、ヨウ素価等</p>	<p>本剤はキャップが淡橙色不透明、ボディはベージュ色不透明の1号硬カプセル剤で、内容質量は1カプセル360 mg（表示量±5%）である。内容物は黄褐色の粉末で、特異なおいがあり、味は苦い。</p> <table border="1" data-bbox="758 510 1141 649"> <thead> <tr> <th data-bbox="758 510 925 566"></th> <th data-bbox="925 510 1141 566">外 形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="758 566 925 649">カプセル</td> <td data-bbox="925 566 1141 649">  </td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 崩壊 日本薬局方の一般試験法の「崩壊試験法・操作法（1）即放性製剤」の規定に適合する。</p> <p>2) 質量偏差 第十二改正日本薬局方の一般試験法の「質量偏差試験法・カプセル剤（1）硬カプセル剤」の規定に適合する。</p> <p>NC 15</p> <p>該当しない。</p> <p>該当しない。</p>		外 形	カプセル					
	外 形								
カプセル									
<p>2. 製剤の組成</p> <p>(1) 有効成分（活性成分）の含量</p>	<p>1 日量 6カプセル（内容重量：2.16 g）中、</p> <table data-bbox="710 1512 1085 1691"> <tbody> <tr> <td>日局 オウレン</td> <td>1.5 g</td> </tr> <tr> <td>日局 オウバク</td> <td>1.5 g</td> </tr> <tr> <td>日局 オウゴン</td> <td>3.0 g</td> </tr> <tr> <td>日局 サンシシ</td> <td>2.0 g</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の混合生薬より抽出した黄連解毒湯の水製乾燥エキス1,800 mgを含有する。</p>	日局 オウレン	1.5 g	日局 オウバク	1.5 g	日局 オウゴン	3.0 g	日局 サンシシ	2.0 g
日局 オウレン	1.5 g								
日局 オウバク	1.5 g								
日局 オウゴン	3.0 g								
日局 サンシシ	2.0 g								



<p>(2) 添加物</p> <p>3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意</p> <p>4. 製剤の各種条件下における安定性</p> <p>5. 調製法および溶解後の安定性</p> <p>6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)</p> <p>7. 混入する可能性のある夾雑物</p>	<p>カルメロースカルシウム、軽質無水ケイ酸、結晶セルロース、合成ケイ酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルスターチ、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、カプセル本体に青色1号、黄色5号、酸化チタン、ゼラチン、ラウリル硫酸ナトリウム。 *保存剤、安定剤、溶媒、溶解補助剤、基剤等は使用していない。</p> <p>該当しない。</p> <p>1) 未開封</p> <table border="1" data-bbox="715 801 1414 929"> <thead> <tr> <th rowspan="2">P T P 包装</th> <th colspan="2">保存条件</th> <th>安定性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40°C, 75%RH</td> <td>6 カ月</td> <td>安 定</td> </tr> </tbody> </table> <p>試験項目：性状、確認試験、乾燥減量、指標成分含量、メタノールエキス含量、70%エタノールエキス含量、崩壊試験、質量偏差試験</p> <p>2) 開封した場合 本剤は水製乾燥エキス製剤で吸湿性が高いので、開封した場合には吸湿しないようにポリエチレン袋、空き缶等の容器に入れて保管すること。又、ぬれた手で取扱わないこと。</p> <p>該当しない。</p> <p>該当資料なし。</p> <p>天然の生薬を原料としているので、夾雑する可能性のある物質を特定することはできない。</p>	P T P 包装	保存条件		安定性	40°C, 75%RH	6 カ月	安 定
P T P 包装	保存条件		安定性					
	40°C, 75%RH	6 カ月	安 定					

## 8. 溶出試験

日本薬局方の一般試験法の「溶出試験法 パドル法」の方法により試験を行う。

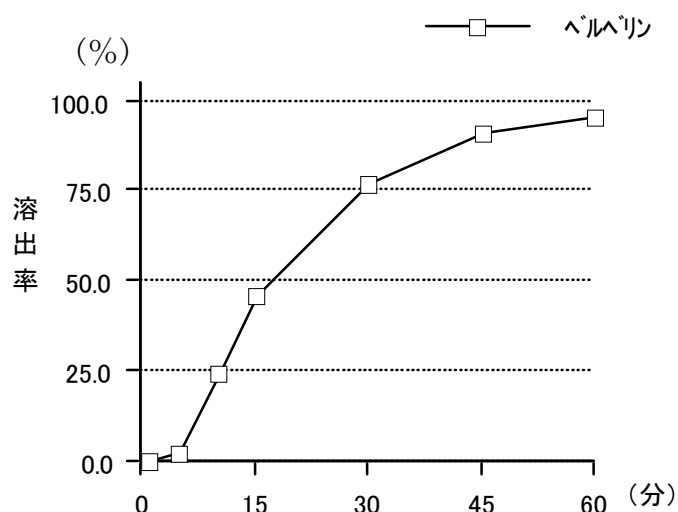
条件：回転数 150 rpm

試験液 日本薬局方の溶出試験第1液

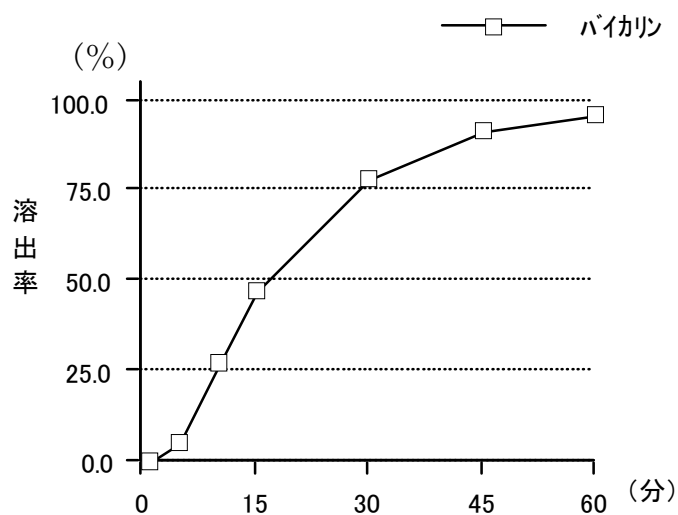
指標 ベルベリン、バイカリン

(HPLC法)

## (1) ベルベリン



## (2) バイカリン



## 9. 生物学的試験法

該当資料なし。

## 10. 製剤中の有効成分の確認試験法

「有効成分の確認試験法」の項目に記載した方法により、配合生薬のオウレン・オウバク、オウゴン、サンシシを確認する。

11. 製剤中の有効成分の  
定量法

「有効成分の定量法」の項目に記載した方法により下記の含量を定量する。

オウレン・オウバク由来のベルベリンの含量

オウゴン由来のバイカリンの含量

メタノールエキス含量

70%エタノールエキス含量

## 12. 力 価

本剤は力価表示に該当しない。

## 13. 容器の材質

P T P包装（ポリプロピレンフィルムとアルミ箔）し、更にピロー包装（アルミ箔とポリエチレンのラミネートフィルム）を施している。

## 14. そ の 他

## 1) 微生物試験

昭和62年8月5日 薬監第72号 医療用漢方エキス製剤の製造管理および品質管理に関する基準（漢方GMP、日本漢方生薬製剤協会自主基準）より社内基準制定

細菌 一般生菌数  $1.0 \times 10^3$  個/g 未満

大腸菌群 検出せず

真菌生菌数  $1.0 \times 10^2$  個/g 未満

## 2) 無機元素含量

製剤1日量中の代表的無機元素の高周波誘導結合プラズマ（ICP）分析法による実測値を示す。なお、カリウム（K）は蛍光分析法による。

（単位：mg/日、n=3）

Na	K	Ca	Mg	P	Fe	Al	Zn
2.5	45.0	8.9	3.1	4.1	0.01	14.8	0.01

## 簡易懸濁法

○：通過 △：注射筒（先端）に残存 ×：閉塞

（ ）：脱カプセル

投与量	適否	通過サイズ	温湯（55°C・30mL）
			10分
2カプセル	不適 （不適）	5Fr.	△（△）
	不適 （不適）	8Fr.	△（△）
3カプセル	不適 （不適）	5Fr.	△（△）
	不適 （不適）	8Fr.	△（△）

石田志朗ら：漢方薬の簡易懸濁法施行に向けての評価，第128年会日本薬学会（平成20年3月26-28日，横浜）にて発表

## V. 治療に関する項目

1. 効能または効果	<p>比較的体力があり、のぼせがみで顔色赤く、いらいらする傾向のある次の諸症： 鼻出血、高血圧、不眠症、ノイローゼ、胃炎、二日酔、血の道症、めまい、動悸、湿疹・皮膚炎、皮膚掻痒症</p>
2. 用法および用量	<p>通常、成人1日6カプセル（2.16g）を2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p> <p>※小児用量</p> <p>1) 本剤は1号硬カプセル剤（長さ約19mm）のため、のどにつかえるおそれがあるので、5歳未満の乳幼児には服用させないことが望ましい。</p> <p>2) 小児用量は特に定められていないが、目安として Von Harnack の小児薬用量換算表に準ずると下記のようなになる。</p> <p style="padding-left: 40px;">12歳 …… 成人用量の2/3 [1日4カプセル] 7.5歳 …… 成人用量の1/2 [1日3カプセル]</p>
<p>3. 臨床成績</p> <p>(1) 臨床効果</p> <p>(2) 臨床薬理試験：忍容性試験</p> <p>(3) 探索的試験：用量反応探索試験</p> <p>(4) 検証的試験</p> <p>1) 無作為化平行用量反応試験</p> <p>2) 比較試験 (二重盲検等)</p> <p>3) 安全性試験</p> <p>4) 患者・病態別試験</p>	<p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p>

---

3. 臨床成績

(5) 治療的使用

1) 使用成績調査・  
特別調査・  
市販後臨床試験

2) 承認条件として実施  
予定の内容または  
実施した試験の概要

該当資料なし。

## VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物または化合物群	特定できない。 [参考] 本剤の配合生薬に含まれる化合物として、オウレン・オウバク由来のベルベリン、オウゴン由来のバイカリン、サンシシ由来のゲニポシド等が含有されている。
2. 薬理作用 (1) 作用部位・作用機序	該当資料なし。
(2) 薬効を裏付ける試験成績	該当資料なし。

## VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法	
(1) 治療上有効な 血中濃度	該当資料なし。
(2) 最高血中濃度 到達時間	該当資料なし。
(3) 通常用量での 血中濃度	該当資料なし。
(4) 中毒症状を発現する 血中濃度	該当資料なし。
2. 薬物速度論的パラメータ	
(1) 吸収速度定数	該当資料なし。
(2) バイオアベイラビリティ	該当資料なし。
(3) 消失速度定数	該当資料なし。
(4) クリアランス	該当資料なし。
(5) 分布容積	該当資料なし。
(6) 血漿蛋白結合率	該当資料なし。
3. 吸 収	該当資料なし。
4. 分 布	
(1) 血液-脳関門通過性	該当資料なし。
(2) 胎児への移行性	該当資料なし。
(3) 乳汁中への移行性	該当資料なし。
(4) 髄液への移行率	該当資料なし。
(5) その他の組織への 移行性	該当資料なし。

<p>5. 代 謝</p> <p>(1) 代謝部位および代謝経路</p> <p>(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種</p> <p>(3) 初回通過効果の有無およびその割合</p> <p>(4) 代謝物の活性の有無および比率</p> <p>(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ</p>	<p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p>
<p>6. 排 泄</p> <p>(1) 排泄部位</p> <p>(2) 排泄率</p> <p>(3) 排泄速度</p>	<p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p>
<p>7. 透析等による除去率</p> <p>(1) 腹膜透析</p> <p>(2) 血液透析</p> <p>(3) 直接血液灌流</p>	<p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p> <p>該当資料なし。</p>



## VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由	添付文書に記載なし。
2. 禁忌内容とその理由	添付文書に記載なし。
3. 効能・効果に関連する 使用上の注意とその理由	該当しない。
4. 用法・用量に関連する 使用上の注意とその理由	該当しない。
5. 慎重投与内容とその理由	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>著しく体力の衰えている患者 [副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]</p> </div>
6. 重要な基本的注意とその理由および処置方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本剤の使用にあたっては、患者の証（体質・症状）を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。</li> <li>2) サンシシ含有製剤の長期投与（多くは5年以上）により、大腸の色調異常、浮腫、びらん、潰瘍、狭窄を伴う腸間膜静脈硬化症があらわれるおそれがある。長期投与する場合にあっては、定期的にCT、大腸内視鏡等の検査を行うことが望ましい。</li> <li>3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。</li> </ol> </div>
7. 相互作用 (1) 併用禁忌とその理由	添付文書に記載なし。
(2) 併用注意とその理由	添付文書に記載なし。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

1) 重大な副作用と初期症状

- ① 間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常（捻髪音）等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。
- ② 肝機能障害、黄疸：AST (GOT)、ALT (GPT)、Al- P、 $\gamma$ - GTP の著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- ③ 腸間膜静脈硬化症：長期投与により、腸間膜静脈硬化症があらわれることがある。腹痛、下痢、便秘、腹部膨満等が繰り返しあらわれた場合、又は便潜血陽性になった場合には投与を中止し、CT、大腸内視鏡等の検査を実施するとともに、適切な処置を行うこと。なお、腸管切除術に至った症例も報告されている。

2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、蕁麻疹等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2) 項目別副作用発現頻度および臨床検査値異常(副作用として) 一覧

臨床検査値の異常があらわれることがある。  
 肝機能障害、黄疸：AST (GOT)、ALT (GPT)、Al- P、 $\gamma$ - GTP の著しい上昇等。  
 腸間膜静脈硬化症：便潜血陽性。

(3) 基礎疾患、合併症、重症度および手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし。

(4) 薬物アレルギーに対する注意および試験法

発疹、蕁麻疹等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

9. 高齢者への投与	一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。
11. 小児等への投与	小児等に対する安全性は確立していない。〔使用経験が少ない〕
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	添付文書に記載なし。
13. 過量投与	添付文書に記載なし。
14. 適用上および薬剤 交付時の注意（患者等に 留意すべき必要事項等）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合にはただちに連絡するよう患者に対し注意を与えること。</li> <li>2) 薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。〔PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕</li> <li>3) 本剤は水製乾燥エキス製剤で吸湿性が高いので、開封した場合には吸湿しないようにポリエチレン袋、空き缶等の容器に入れて保管するよう指導すること。 又、ぬれた手で取扱わないよう指導すること。</li> <li>4) 子供の手の届かないところに保管するよう指導すること。</li> </ol>
15. その他の注意	添付文書に記載なし。
16. そ の 他	医療用漢方製剤の「使用上の注意」の記載内容については、厚生省医薬安全局長通知（薬発第607号）に基づき、平成10年10月に日本漢方生薬製剤協会と業界として統一しました。

## Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 一般薬理	該当資料なし。						
2. 毒性	原薬（水製乾燥エキス）の急性毒性は下表の成績であった。（LD <sub>50</sub> ：mg/kg）						
(1) 単回投与毒性試験	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="671 506 954 555">動物種</th> <th data-bbox="954 506 1189 555">投与経路</th> <th data-bbox="1189 506 1426 555">LD<sub>50</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="671 555 954 607">BDF<sub>1</sub>系マウス♂</td> <td data-bbox="954 555 1189 607">経口</td> <td data-bbox="1189 555 1426 607">&gt;5000</td> </tr> </tbody> </table>	動物種	投与経路	LD <sub>50</sub>	BDF <sub>1</sub> 系マウス♂	経口	>5000
動物種	投与経路	LD <sub>50</sub>					
BDF <sub>1</sub> 系マウス♂	経口	>5000					
(2) 反復投与毒性試験	該当資料なし。						
(3) 生殖発生毒性試験	該当資料なし。						
(4) その他の特殊毒性	該当資料なし。						
一般症状：異常所見なし、死亡例なし。（社内資料）							

## X. 取扱い上の注意等に関する項目

<p>1. 有効期間または使用期限 (1) 有効期間 (2) 使用期限</p>	<p>設定されていない。 3年/室温 なお使用期限は外箱に記載。</p>
<p>2. 貯法・保存条件</p>	<p><b>室温保存</b> 漢方製剤は吸湿しやすいので、湿気を避け、直射日光の当たらない涼しい場所に保管すること。</p>
<p>3. 薬剤取扱い上の注意点</p>	<p>1) 開封した場合には吸湿しないようにポリエチレン袋、空き缶等の容器に入れて保管すること。 2) 本剤は天然の生薬を原料としているので、ロットにより内容物の色調等に異同があるが、効能その他に変わりはない。 3) カプセルの粉砕は可能であるが、内容物には特有のにおい、苦味があるので、服用に支障を来す場合がある。 4) ぬれた手で取扱わないこと。 5) 外箱に記載の使用期限内に使用すること。</p>
<p>4. 承認条件</p>	<p>特になし。</p>
<p>5. 包装</p>	<p>P T P : 600、300 カプセル ポリ瓶 : 450 カプセル</p>
<p>6. 同一成分・同効薬</p>	<p>同一処方名薬：          クラシエ黄連解毒湯エキス細粒      コタロー黄連解毒湯エキス細粒          三和黄連解毒湯エキス細粒      サカモト黄連解毒湯エキス顆粒- S          〔東洋〕黄連解毒湯エキス細粒      クラシエ黄連解毒湯エキス錠          オースギ黄連解毒湯エキス G      JPS 黄連解毒湯エキス顆粒〔調剤用〕          太虎堂の黄連解毒湯エキス顆粒      ツムラ黄連解毒湯エキス顆粒(医療用)          テイコク黄連解毒湯エキス顆粒      本草黄連解毒湯エキス顆粒- M          オースギ黄連解毒湯エキス T 錠          ジュンコウ黄連解毒湯 FC エキス細粒医療用</p>
<p>7. 国際誕生年月日</p>	<p>不明。</p>
<p>8. 製造・輸入承認年月日 および承認番号</p>	<p>製造承認年月日 : 1986年8月28日 承認番号 : (61AM) 第4026号</p>
<p>9. 薬価基準収載年月日</p>	<p>1986年10月30日</p>

10. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日およびその内容	※効能・効果の変更 効能・効果の「比較的体力があり、のぼせぎみで顔色赤く、いらいらする傾向のある次の諸症。胃炎、二日酔、めまい、動悸、ノイローゼ、不眠症、血の道症、鼻出血。」が、「比較的体力があり、のぼせぎみで顔色赤く、いらいらする傾向のある次の諸症：鼻出血、高血圧、不眠症、ノイローゼ、胃炎、二日酔、血の道症、めまい、動悸、湿疹・皮膚炎、皮膚癢痒症」に変更。 (2014年4月7日公表の再評価結果)
11. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	前項を参照。
12. 再審査期間	該当しない。
13. 長期投与の可否	該当しない。
14. 厚生省薬価基準収載医薬品コード	5200011M1027
15. 保険給付上の注意	該当しない。

## XI. 文献

- |             |         |
|-------------|---------|
| 1. 引用文献     | 該当資料なし。 |
| 2. その他の参考文献 | 該当資料なし。 |

## XII. 参考資料

主な外国での発売状況

該当しない。



## XIII. 備考

その他の関連資料

該当資料なし。